

日鋼記念病院における勤務医・看護師・医療従事者負担軽減計画

令和5年4月1日現在の勤務医の勤務状況 1. 医師数 常勤 53名 2. 常勤医師平均業務時間 平均 42.97時間/週 3. 当直回数 平均月 2 回		目標 ○当院では、従来から、勤務医および看護師の勤務状況を把握し、改善すべき点については各診療科の責任者への指導により対応してきたが、勤務医および看護師の負担軽減を進めるためには、コメディカルを含めた各診療部の協力体制が必要であることから、医師および看護師が担っていた業務等の他職種への分担を進めており、今回も、これをより推し進めることを目標とする。		
分野	対象	現状	令和5年度の目標	目標達成のために必要な手順
看護部	医師 看護師	特定行為研修受講(糖尿病看護特定認定看護師)	糖尿病ケアの薬剤投与の実施	合格後手順書作成
	看護師	定期薬は薬剤師が管理しているが、臨時薬は看護師が行っている。	病棟薬剤師による管理および服薬管理指導の実施。	薬剤師の増員 業務マニュアルの作成
		個別払い出しをしていない。	個別払い出しの実施(プレフィルドタイプの導入)	運用の検討
		手術部器械出し業務の委譲	臨床工学技士の増員	募集活動 教育マニュアルの充実
		看護補助者への業務委譲拡大	業務内容の抽出 派遣業者との協力	アンケート調査、業務マニュアルの作成、教育
		手術室清掃委託業者への業務委託内容の拡大	機器のピッキング	委託業者との契約内容の見直し
妊娠・子育て中、介護中の看護職員に対する配慮	看護師	夜勤の減免制度を導入している。	引き続き制度の周知および制度利用の促進を図る。	引き続き制度の周知および制度利用の促進を図る。
		休日勤務の制限制度を導入している。	引き続き制度の周知および制度利用の促進を図る。	引き続き制度の周知および制度利用の促進を図る。

日鋼記念病院における勤務医・看護師・医療従事者負担軽減計画

令和5年4月1日現在の勤務医の勤務状況 1. 医師数 常勤 53名 2. 常勤医師平均業務時間 平均 42.97時間/週 3. 当直回数 平均月 2 回	目標 ○当院では、従来から、勤務医および看護師の勤務状況を把握し、改善すべき点については各診療科の責任者への指導により対応してきたが、勤務医および看護師の負担軽減を進めるためには、コメディカルを含めた各診療部の協力体制が必要であることから、医師および看護師が担っていた業務等の他職種への分担を進めており、今回も、これをより推し進めることを目標とする。
--	---

分野	対象	現状	令和5年度の目標	目標達成のために必要な手順
薬剤管理	医師	薬用量、使用法、相互作用など処方内容の確認について薬剤師が確認しているのは薬剤管理指導を実施している患者45%にとどまる。	薬剤師による薬用量、使用法、相互作用など処方内容の確認は60%の実施。	薬剤師の病棟配置またオーダーリングシステムを活用しチェックシステムを充実する。
		抗がん剤の無菌製剤処理、抗がん剤治療計画の確認は100%実施しているが、レジメン管理は行われていない。	院内で行われている抗がん剤治療計画の把握および、レジメン管理を行い、院内医療スタッフが情報を共有する。またレジメンオーダーリングシステムを構築し、オーダー時医師の負担を軽減、安全面でも質を向上させる。	がん薬物療法認定(専門)薬剤師の配置、レジメン管理委員会の活発な活動、レジメンオーダーリングシステムの構築。
	医師	共同薬物治療管理業務(CDTM)の導入、CDTMを導入する事により医師の処方入力負担を軽減する。現状:未導入	共同薬物治療管理業務(CDTM)診療科を限定し部分的に導入を行う。	薬剤部門から各診療科医師に対して提案を行い承認を得る。
	医師 看護師	病棟患者への服薬指導:現在実施率45%。薬剤の説明は医師・看護師が行っている場合が多い。	薬剤師による服薬指導を実施率60%とする。	薬剤師の病棟配置、カンファレンスへの参加を行い、医師・看護師との連携を強化する。
	看護師	注射薬のラベルについて手書きをしている。	ラベリングシステムの導入で、手書きをなくす。	ラベリングシステムの導入
診療画像の読影(CT・MRI)	医師	放射線科医が1名で月1,000件程度の読影を行っている。医師1名当たりの読影件数が多く負担が大きい。	医師と技師が共同で読影をしてサポートする。検査種別および部位別に随時実施していく。 [頭部、頸部、胸部、腹部、整形領域、ほか]	読影能力を養うため学習会及びセミナー等への参加する。また、放射線科医に直接指導を受け、実践的な知識を取得する。
		放射線科医が行う乳腺エコーは50件/月程度の症例数があるが、検査時間が他の緊急検査と重複することも多く医師には多大なストレスを強いている。	放射線技師がスクリーニング検査を担当できるよう検査手技をレベルアップし放射線科医の検査を随時移管していく。	放射線科医の指導及び臨床検査技師との連携を強化しレベルアップを図るとともに、マンモグラフィと乳腺エコーの読影力及び総合判定に関する知識の向上を図るための勉強会も併せて開催する。
リハビリテーションセンター	看護師	病棟で貸し出す各種杖(歩行器含む)は看護師が高さなどを調整していた。	リハビリを行っている患者は、すべてリハビリテーションセンター職員が調整する。	リハビリテーションセンター職員が積極的に病棟を出向く体制を作る。

日鋼記念病院における勤務医・看護師・医療従事者負担軽減計画

令和5年4月1日現在の勤務医の勤務状況 1. 医師数 常勤 53名 2. 常勤医師平均業務時間 平均 42.97時間/週 3. 当直回数 平均月 2 回	目標 ○当院では、従来から、勤務医および看護師の勤務状況を把握し、改善すべき点については各診療科の責任者への指導により対応してきたが、勤務医および看護師の負担軽減を進めるためには、コメディカルを含めた各診療部の協力体制が必要であることから、医師および看護師が担っていた業務等の他職種への分担を進めており、今回も、これをより推し進めることを目標とする。
---	---

分野	対象	現状	令和5年度の目標	目標達成のために必要な手順
臨床検査	医師 看護師	検体検査のオーダー画面はオーダーリングシステム開始時から、掲載項目や配置等にほとんど変化がない。関連のある検査が同じ画面にないため、検査もれを起こす可能性があるため改善の要望があった。	検体検査オーダーリング画面の整理と改善を行う	・医師会例会等で検査オーダーリング画面改善の目的を説明する。 ・医師会員にアンケートを行い、同じ画面に乗せてほしい項目などの要望を聞き、集約する。 ・オーダー画面の改善案を作成し、医師会員から承認をもらう ・オーダー画面の改善作業を行う
	医師	検査に関する意義や目的など、詳細を知りたいと思っても、DI情報のように手軽に電子カルテを参照することができない。	一般的ではない検査項目をピックアップし、そのうちの20%以上を電子カルテの「項目説明」機能を用いて、電子カルテを表示できるようにする。	・医師会例会等で検査オーダーリング画面改善の目的を説明する。 ・医師会員にアンケートを行い、同じ画面に載せてほしい項目などの要望を聞き、集約する。 ・検査を依頼する診療科が限定的であるような検査項目をピックアップする。 ・ピックアップされた検査の項目に関する検査の説明を作成する。 ・電子カルテに情報を登録する。
		B型肝炎再活性化予防対策において、対象薬剤を投与している患者は、医師が定期的な検査値チェックを行うことが必要とされるが、検査漏れが起きるおそれがある	検査漏れをなくす	検査部門で定期的に対象となる検査データのチェックを行い、データ判定と次回検査時期に関して付箋を入れる。
		B型肝炎・C型肝炎のスクリーニングを行っている患者が陽性となったとき、治療を開始する必要があるが、治療が漏れていないか検査結果のリストを作成し、医療安全対策室に提出する	治療の漏れをなくす	月が新しくなったとき、前月の検査実施者を抽出し、陽性者と陰性者に分けてリストを作成する
血液浄化 (臨床工学室)	医師	手術・外来の合間をぬって、定期採血のチェックとスタッフとのカンファレンスを行っている。	医師によるESA増量減量の計算を省くことができるよう運用する。	ESAアルゴリズムの作成と運用
	看護師	穿刺困難症例を臨床工学技士が対応することが多く、穿刺する患者数の増加は見込めない。前述の方が、負担軽減の意味合いは大きい。	エコーガイド下穿刺の実践者として臨床工学技士を育成し、1名増やす。	業務分担表の再構築

日鋼記念病院における勤務医・看護師・医療従事者負担軽減計画

令和5年4月1日現在の勤務医の勤務状況 1. 医師数 常勤 53名 2. 常勤医師平均業務時間 平均 42.97時間/週 3. 当直回数 平均月 2 回		目標 ○当院では、従来から、勤務医および看護師の勤務状況を把握し、改善すべき点については各診療科の責任者への指導により対応してきたが、勤務医および看護師の負担軽減を進めるためには、メディカルを含めた各診療部の協力体制が必要であることから、医師および看護師が担っていた業務等の他職種への分担を進めており、今回も、これをより推し進めることを目標とする。		
分野	対象	現状	令和5年度の目標	目標達成のために必要な手順
初診時の 予診の実施	医師	初診患者の問診・入院時の説明・検査手順の説明について、医師事務作業補助者や看護師が行っている。	初診患者の問診・入院時の説明・検査手順の説明について、医師事務作業補助者や看護師による役割を強化する。	医師事務作業補助者を確保し作業を強化する。また、スキルアップにつながる研修を実施する。
入院の説明の実施				
検査手順の説明の実施				
医師	医師	当院産婦人科医師の負担軽減のため、月1～2回、大学医局より週末の待機・当直の交代勤務要員の派遣を受けている。	常勤医師の休日の待機・当直業務を軽減し、休日の確保に努める。	大学医局へ交代要員の増員を継続して働きかける。
		タイムカードにより在院時間は把握していたが、実労働時間を本人から申請される体制が整っていなかった。	本人から実労働時間を所属長の承認を経て申請することで適切な労働時間の把握に努めるとともに個人に労働時間が偏ることを防ぐため、所属長による平準化を図る。	実労働時間を所属長の承認を経て申請する体制を整備、長時間労働が発生した場合には人事課から所属長に情報発信し、是正を促す。
妊娠・子育て中、介護中の職員に対する配慮	医師 看護師 医療従事者	24時間の院内保育を実施している。	引き続き制度の周知および制度利用の促進を図る。	引き続き制度の周知および制度利用の促進を図る。
		半日単位休暇制度を導入している。	時間単位の休暇制度の導入を目指す。	時間単位の休暇について管理運用方法を定める
		育児短時間勤務制度の対象者を法定より拡げて導入している。(小学校3年生年度末まで対象)	引き続き制度の周知および制度利用の促進を図る。	引き続き制度の周知および制度利用の促進を図る。
当直翌日の業務内容に対する配慮	医師	当直翌日も多くの場合で通常勤務を行っている。	適切な労務管理の実施 人材確保につながる取組みの強化	勤怠管理システムの導入 有料紹介業者を活用し勤務医の充実を図る